現地説明会資料

茶臼塚古墳

発掘調査現地説明会資料

平成２４年(２０１２年)１０月２１日(日)

城陽市教育委員会・井手町教育委員会

調査主体：城陽市教育委員会・井手町教育委員会

調査期間：平成２４年（２０１２年）４月１６日～１０月２１日（予定）

調査面積：約１，２００㎡

１．はじめに

茶臼塚古墳は、城陽市と井手町の境、東から西に延びる丘陵の稜線上に単独で位置します。昭和４８年（１９７３年）に山城考古学研究会により墳丘と石室の測量調査が行われています。この調査により、切石状の石材を使用した横穴式石室をもつ直径約２０ｍ程度の円墳と推定されていました。

２．調査の経過

今回の調査は、茶臼塚古墳が所在する丘陵を含む城陽市と井手町にまたがる一帯の開発に伴い実施したものです。茶臼塚古墳は、城陽市と井手町の市町境に所在する古墳として、京都府教育委員会や城陽市教育委員会及び井手町教育委員会の遺跡地図に掲載されています。城陽市史第一・三巻には、その概要や古墳の意義について記載されています。また井手町史シリーズ第五集にも記載がみられます。

これらのことから、京都府教育委員会、城陽市教育委員会、井手町教育委員会と開発事業者で協議を行った結果、城陽市と井手町にまたがる古墳であるとして、城陽市教育委員会と井手町教育委員会で調査を行うこととなりました。

３．調査成果

（１）墳丘について

調査前の現況では、墳丘は明確ではなく、開墾や地境溝などにより大きく改変をうけているものと思われました。

調査の結果、石室周辺のほとんどが後世の盛土で、墳丘の盛土は開墾などにより大半が失われていることがわかりました。このため、正確な墳形や規模はわかりませんでした。しかし、墳丘の南西側に残るわずかな墳丘盛土や墳丘裾と思われる地山層のわずかな掘り込みなどから、直径約２０ｍの円墳ではないかと推定されます。

（２）石室について

調査前は、露出している石材を玄室（げんしつ）（人を葬った部屋）とする比較的規模の小さい横穴式石室と推定されていました。

調査の結果、大形の石材を使用した全長約１２ｍの両袖式横穴式石室であることがわかりました。

①玄室（人を葬る部屋）

すべての石材が抜き取られているため、正確な規模や構造はわかりませんでした。床面には３～１０ｃｍの小石を敷き詰めた礫床が施されています。この礫床が羨道（玄室への通路）の側壁より両側に約３３ｃｍ広がっていたことから、両側に袖（羨道より広がった部分）をもつ両袖式の横穴式石室と判断しました。玄室の長さは約４．５ｍ、幅は約２ｍ、袖の幅は３５～４０ｃｍ程度と推定されます。

②羨道（玄室への通路）

羨道は、一番下の石材のみが残っていました。羨道の長さは約７．１ｍ、幅は約１．５ｍあります。床面には３～１０ｃｍの小石を敷き詰めた礫床が施されていますが、玄門（玄室と羨道の境目）から約３ｍの所より石室入口側は削られており、残っていませんでした。また、床面の中央には幅約１５ｃｍ、深さ約１５ｃｍの排水溝が造られています。この排水溝も玄門から約２．８ｍの所から石室入口側は後世に掘られた溝により壊されていました。

羨道の東側壁は、袖石（玄室と接する石材）から４石に大きな石材が使われています。羨道の西側壁は、袖石から３石に大きな石材が使われています。使用されている石材は、花崗岩やホルンフェルスと呼ばれる石で、南谷川から運ばれたものと考えられます。

（３）出土遺物

須恵器、土師器、瓦器などがあります。大半が石室の入口付近で出土しました。盗掘や石室の石材を抜き取った時に、入口付近に持ち出されたと考えられます。

須恵器には、蓋付きの高杯、杯身、杯蓋、台付壺、甕、ハソウなどがあります。

土師器は破片で、器種はわかりません。

また、瓦器は椀が出土しており、中世に石室が何かに再利用されたものと考えられます。

４．まとめ

城陽市の青谷地域から木津川市にかけての木津川東岸の丘陵には、たくさんの横穴式石室を埋葬施設とする古墳が造られます。その中でも今回調査した茶臼塚古墳は、大形の石材を使用した南山城地域で最大級の横穴式石室をもつことがわかりました。

築造時期は出土した須恵器から６世紀の終わりごろと考えられ、６世紀後半に築造された城陽市の黒土１号墳（中天満神社境内に所在）に続いて築造されたと考えられます。

葬られた人は、城陽市から井手町を中心に木津川東岸を支配していた有力な豪族と考えられます。

今回の調査は、南山城地域における６世紀後半の大型横穴式石室の様子を知る貴重な資料となりました。

	墳丘		石室								所在地
	墳形	規模	袖	全長	玄室長	玄室幅	玄室高	羨道長	羨道幅	羨道高	
茶臼塚古墳	円墳	約 20 m	両袖式	約 12 m	4.5 m	約 2 m	不明	7.1 m	1.5 m	不明	城陽市井手町
黒土 1 号墳	円墳	約 30 m	両袖式	9.5 m	5 m	2.55 m	3.7m	4.5 m	1.25 m	2.4 m	城陽市
上大谷 12 号墳	方墳	約 15 m	両袖式	8.5 m	3.4 m	1.6 m	不明	5.1 m	1.2 m	不明	城陽市
上大谷 17 号墳	円墳	約 13 m	左片袖式	9 m	4 m	3.5 m	不明	5 m	m	不明	城陽市
堀切 1 号墳	円墳	約 22 m	両袖式	9 m	4.6 m	1.8 m	2 m 以上	4.7 m	1.06 m	不明	京田辺市
堀切 11 号墳	円墳	約 22 m	左片袖式	8 m 以上	4.6m (推定)	1.8 m (推定)	不明	3.5 m 以上	0.8 m	不明	京田辺市
下司 1 号墳	円墳	約 24 m	両袖式	8.55 m	3.55 m	2.1 m	不明	5 m	2.4 m	不明	京田辺市
前栫 2 号墳	円墳	約 20 m	両袖式	9.5 m	5 m	1.4 m	2 m	4.5 m	1.15 m	1.9 m	木津川市
塚穴 1 号墳	方墳	約 21 m	両袖式	4.8 m 以上	3.3 m	2.4 m	2.5 m ?	1.5 m 以上	1.35 m	不明	木津川市
隼上り 1 号墳	円墳	約 23 m	両袖式	8.4 m	4.5 m	2 m	不明	3.9 m	1.3 m	不明	宇治市
隼上り 2 号墳	円墳	約 30 m	右片袖式	9.15 m	3.65 m	1.95 m	不明	5.5 m	1.6 m	不明	宇治市

表 1　南山城地域の 6 世紀後半～ 7 世紀初め大型横穴式石室をもつ古墳

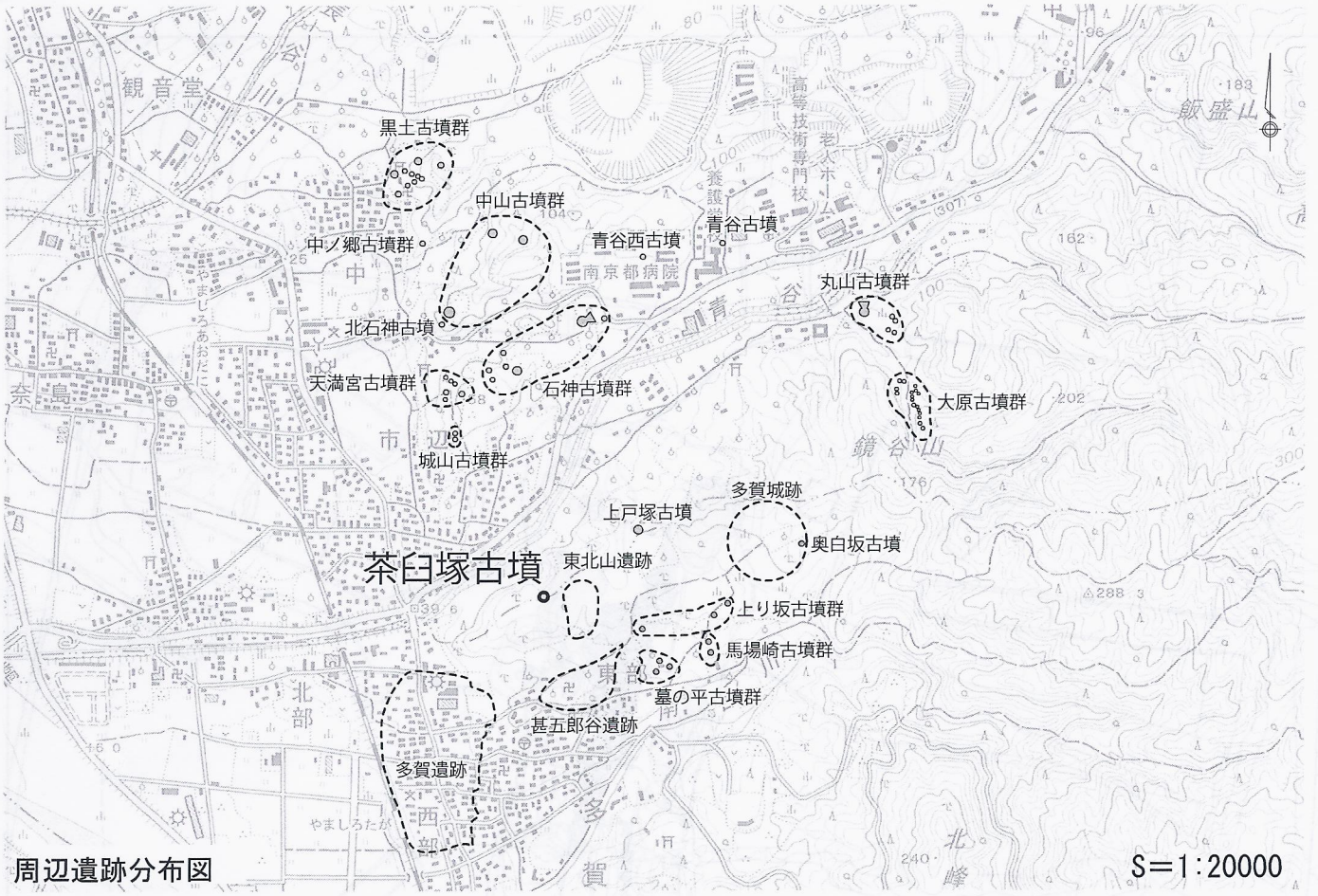

図１　周辺遺跡分布図・調査位置図

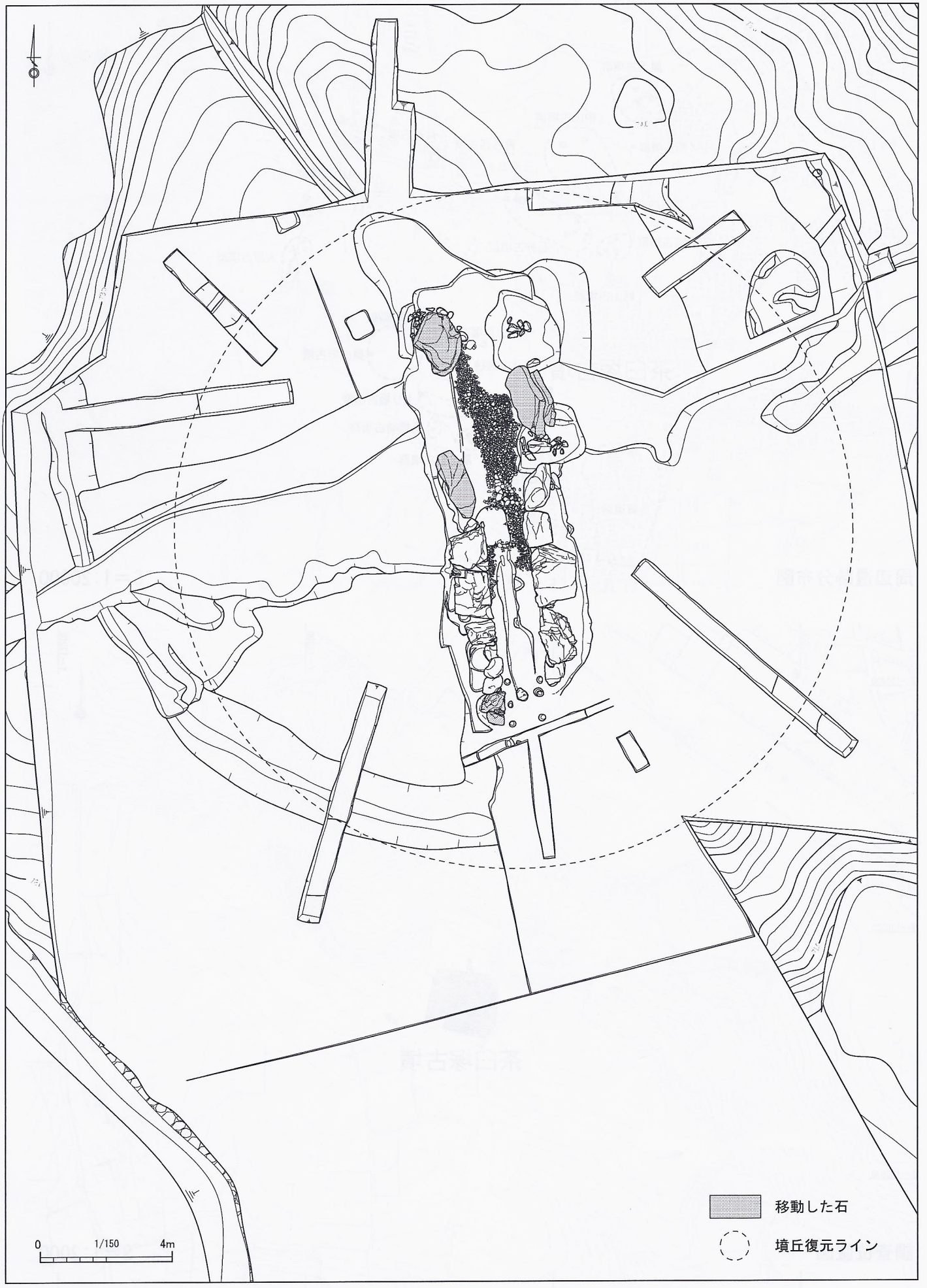

図 2　調査区全体平面図

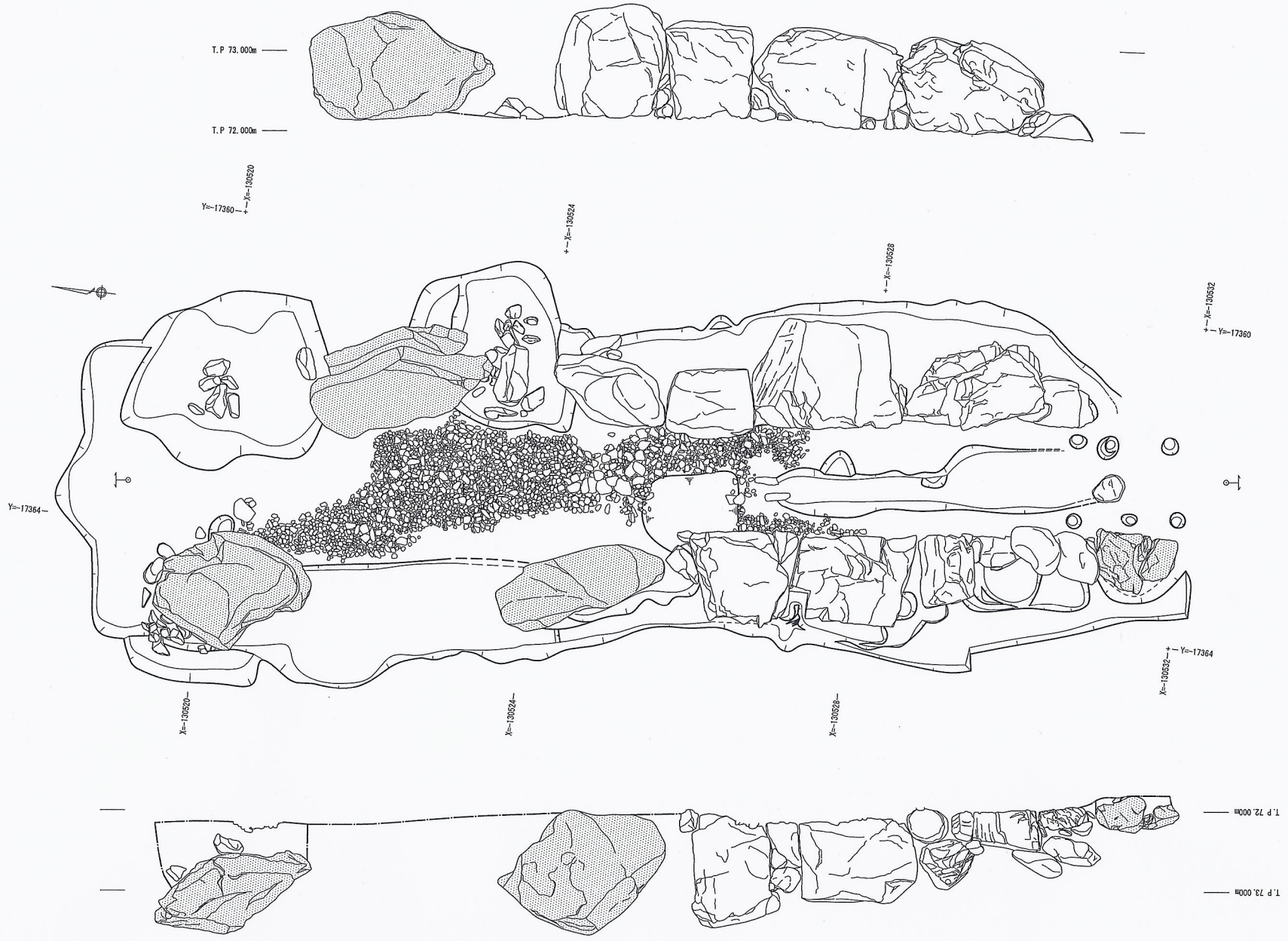

図3　石室　平・立面図　S=1/50